

星霧から観測者に達する迄、數百萬年を費して旅行しなければならぬ星霧相互の空間を一様に満たしてゐる極めて稀薄な媒質（瓦斯體）と作用し合つて、光はそのエネルギーを失ひ、従つて、波長が伸び、その結果スペクトル線が變位すると論じ、宇宙は本來靜止し、まだまだ其の涯を知ることが出来ない程、大きなものであると述べ、かゝる宇宙こそ實在可能にして、却つて解り易い宇宙であると結んでゐる。

## 『天界』第20卷挿繪目次

本年の火星觀測の收穫 (3)	十一月號口繪	火星面模様 (1)	207
切通石	14	支那星座の圖 (6)	(247)
“紫微垣”の星々	(207)	逝ける淺野英之助氏	224
オリオン星の全貌	十二月號口繪	建國の劍星	六月號口繪
ブラジル皆既日食線の圖	37, 40	ロス卿の描いた蟹星霧	六月號表紙繪
太陽系軌道圖	45	火星面模様 (2)	228
“太微垣”の星々	65	33光年以内の星約 125 個	234
琴座の環狀大星霧	一月號口繪	支那星座の圖 (7)	(255)
フレンド・岡林慧星	〃	海南島の南の空、北の空	242
“かに”星霧 (M. I)	二月號口繪	皇紀 2600 年を飾る四大遊星	七月號口繪
“天市垣”の星々	(223)	距離 2600 光年の星團双子座 M35	〃
本年中の天王星の運行圖	126	北極星と周極運動	265
本年中の海王星の運行圖	126	支那星座の圖 (8)	(263)
本會觀測部長木邊成麿氏の觀測所と望遠鏡	三月號口繪	太陽大黒點	282
“二十八宿”の星	(231)	火星面模様 (3)	306
星座説明器	148	〃 (4) 樋口敏一氏	307
十月 1 日の皆既日食線圖	40, 149	新刊太陽面經緯度圖	314
本年中の遊星の離隔一覽表	157	木星と土星の大接近	323
1940年劈頭の太陽大黒點	四月號口繪	火星面模様 (1)	335
龍骨の星座	237	〃 (2~3A)	336
支那の蒼龍の星々	(235)	〃 (3B)	337
龍の星座	(233)	〃 (4)	338
紀伊支部の人々	191	五大遊星會合圖	349
金星の異常大氣による不思議な角相	五月號口繪	吉井氏撮影流星の光度變化圖	410, 411
緯度觀測に用ゐる天頂儀	197	水星の太陽面經過	357, 358
極の描いた經路 (1922~23年)	198	天道樂の會	384
極の逆運動 (最小より次の最大まで)	198	辰の古字	386, 387
全世界の公私緯度觀測所分布圖	199	吉井耕一氏の流星寫眞29號	400
世界の新名所“パロマ山”への道案内	201	吉井耕一氏の流星寫眞第15號	十月號表紙裏
		太陽面の近況	〃 口繪
		伊達觀測所の寫眞機	〃 〃